

# 「信州 山の日」の取組について

長野県林務部 森林政策課 井出 政次

はじめに

県歌「信濃の国」では、一番で「信濃の国は 十州に境連ぬる国にして 聳ゆる山はいや高く」、二番で「四方に聳ゆる山々は 御嶽 乗鞍 駒ヶ岳 浅間は殊に活火山」と歌われ、三番以降の歌詞にも「山」にまつわる言葉が数多く使われています。また、槍ヶ岳や戸隠山など、信仰の対象としての「山」と深く結びつきながら地域の文化を育み、長野県に暮らす私たちは、まさに「山」とともに生きています。

また、「信州の山」は高山だけでなく、全国第3位の面積を誇る豊かな森林もまた、犀川(梓川)、千曲川、木曾川、天竜川、富士川などの源流を有し、清らかな水を絶え間なく生み出してくれ、多様な生き物の棲み処となり、木材やきのこ、山菜などの「山の恵み」を育んでくれています。

そこで、長野県では、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくため、7月の第4日曜日を「信州 山の日」に制定し、2014年度を「信州の山 新世紀元年」と位置付け、信州の「山」の価値を更に高め、県内はもとより全国に発信する取組を進めています。

## 1 「信州の山」の課題について

このように、魅力溢れる「信州の山」にも幾つかの課題があります。「山」への観光利用者数は10年前より約2割減少しており、地域経済の活性化に向けて山岳観光の巻き返しが課題となっています。一方で、「山」に訪れる方が増えることはとてもありがたいことですが、山岳遭難事故の増加や、登山道・山小屋トイレの維持・修繕がより一層求められるなどの課題もあります。

また、人間による影響だけでなく、ニホンジカなどの野生鳥獣による農林業被害の区域が拡大しており、最近では高山植物への被害も大きな問題となっています。

さらには、私たち自身の生活を振り返ると、以前は、子どもたちの遊び場は野山であり、薪を使い、山菜やきのこを採って食べるなど、「山」は生活にとっても身近な存在でしたが、現代では生活様式が大きく変わり、長野県に暮らす私たちでさえ、「山」との関係が希薄になっており、これからの長野県の未来を考えると、特に子どもたちが「山」に親しむ機会を充実していくことが大きな課題となっています。

## 2 「信州 山の日」の制定に向けて

県では、「信州の山」の魅力や価値、課題を改めて考え、「信州の山」への関心を高めていくための一つの方法として、県独自の「山の日」を制定してはどうかと考え、平成25年度から具体的な検討をはじめました。

平成25年4月に県民の「山」に対する意識調査を行いました。その結果、「山」に対する興味は比較的高いものの、性別・年齢階層別にみると20~30歳代の女性の関心が低いことが明らかになりました。また、県が「山の日」を制定することに対しては、約7割が賛成でしたが、制定の趣旨などを明確にす



《長野県「山の日」懇話会の皆様による知事への提言》

べきとの意見をいただきました。

この調査を踏まえ、趣旨、期日、名称等について意見をお聞きするための懇話会を開催しました。信州大学教授の鈴木啓助氏を座長に迎え、山岳、環境、観光、林業、教育等の様々な分野の方に参画いただき、平成25年9月に知事室で提言書をいただきました。提言書では、名称を「信州 山の日」、期日を「7月下旬から8月上旬」とし、制定を契機に「山の恵み」に「親しむ・学ぶ・守る」取組を充実するよう提案されました。



### 3 「信州 山の日」について

《名称》

「信州 山の日」

県内外を問わず、子どもからお年寄りまで幅広く親しまれるように「信州」と表記

《期日》

「信州 山の日」：7月第4日曜日

登山や森林体験等の野外活動が活発に行われ、天候の安定する季節(7～9月)で、子どもたちが参加しやすい時期(休日・夏休み)

「信州 山の月間」：7月15日から8月14日まで(1ヶ月間)

南北に長く標高差がある地域性等に応じて、各種行事や情報発信等を集中的に取り組む期間

### 4 「信州 山の日」制定記念イベントについて

初めての「信州 山の日」となった7月27日(日)には、国営アルプスあづみの公園(安曇野市)で山岳・林業関係者や家族連れおよそ1,000人が訪れ「信州 山の日」制定記念イベントが開催されました。

制定記念式典では、松本市の「アルプホルン・エコー」の皆様によるアルプホルン演奏の後、和田副知事が「長野県は、山や自然があまりに身近なため山への思いが希薄になっていることから、信州 山の日を制定することにより、山を守り、活かしていく機運醸成を図りたい」と制定の趣旨を説明しました。

続いて、安曇野市内の小学校(穂高南・穂高北・堀金)の児童20名が「私たちは、山や森林、身近な自然を学び、自ら進んで親しみます。」「私たちは、健全な森林づくりや美しい山岳環境の保全に取り組みます。」など6項目からなる「信州 山の日」宣言を読み上げました。

式典の最後には、安曇野市の早春賦愛唱会が母体となった「信濃の国をうたう仲間たち」の約120名の方が中心となり「県歌 信濃の国」と「ふるさと」の合唱を参加者全員で行いました。記念式典中はいにくの雨でしたが大勢の歌声が会場から見える常念岳まで届く勢いでした。

さらに、公園内では、長野県木青連による親子木工教室や安曇野市の特産品の販売・信州ジビエ料理などの「山の恵み」に関連した展示ブースや「山の魅力を伝える」ための写真やパネルを展示し、家族連れを中心に多くの方に「信州 山の日」の制定の趣旨を知っていただき、山に親しむよい機会となりました。



《アルプホルンの演奏》



《制定記念イベントの状況》

## 5 「信州の山」に関連した様々な取組

「信州 山の日」の制定を契機として、「信州の山」に関連した取組を民間団体や市町村の方々が主体的に実施しています。県が把握しているだけでも4月1日から8月31日の間に「山」に関連したイベントは約270箇所で開催され、約13万人の方が参加しています。今年度の「信州 山の日」である7月27日には、県下20箇所で開催イベントが開催されました。例えば、平成18年7月の豪雨災害で朝日村側から登ることができなくなっていた鉢盛山の登山道を、村がボランティアの協力を得て整備し「信州 山の日」に8年ぶりに鉢盛山登山が復活するなど「山」に関連した取組が広がっています。

### おわりに

「信州 山の日」は、制定すればおしまい、ではなく、「信州 山の日」を通じて、県民の皆様はもとより、市町村、企業、団体など様々な方々との協力と連携により「山」に親しみ活かしていくことが必要です。ぜひ、皆様も「信州 山の日」の制定を機会に、もう一度、自分自身にとっての「山」について考えてみてください、きっと新しい発見があるはずです。

## 「信州 山の日」宣言

私たちのふるさと 信州・長野県  
雄大な山々や豊かな森林があります  
きれいな水とさわやかな空気があります  
季節ごとに美しい景色を楽しめます  
山登りやスキーを楽しめます  
おいしい山菜やきのこがあります  
いろいろな昆虫や動物もいます  
たくさんの恵みをもたらす「信州の山」は 私たちの宝です

信州・長野県は、「日本の屋根」と呼ばれる標高3,000m級の山々がそびえ、豊かな森林と清流が織りなす雄大な自然にいだかれた、日本を代表する山岳県・森林県です。

私たちは、この「信州の山」が与えてくれる様々な恵みをいただきながら、山とともに暮らしています。

この貴重な財産である「信州の山」に感謝し、山を守り、育て、活かしながら、次世代に引き継いでいくため、7月の第4日曜日を「信州 山の日」と定め、次のとおり宣言します。

- 一、私たちは、山や森林、身近な自然を学び、自ら進んで親しみます。
- 一、私たちは、山のルールを守り安全に楽しみます。
- 一、私たちは、健全な森林づくりや美しい山岳環境の保全に取り組みます。
- 一、私たちは、多くの方々に山の魅力を伝えます。
- 一、私たちは、世界に誇れる山岳高原を活かした観光地づくりを進め、多くの方々をもてなします。
- 一、私たちは、様々な山の恵みに感謝し、暮らしの中で積極的に活かします。

平成26年(2014年) 7月27日